

授業科目	認知・コミュニケーション障害支援学特別研究				
担当者	山口忍・井口知也				(オムニバス)
実務経験者の概要					
学科名	保健医療学研究科	学 年	1年?2年	総単位数	10単位
		開講時期	通年	選択・必修	選択

■ 内 容

認知・コミュニケーション障害支援学特論、特論演習で学修した知識、技能をもとに、高度専門職業人として社会で活躍していくための学修の成果として「修士論文」あるいは「課題研究の成果」の完成を目指す。「修士論文」や「課題研究の成果」は、修士号を得るための一つの過程ではなく、その成果が直接、社会に還元できるものにする。認知・コミュニケーション障害支援学特論、特論演習では認知・コミュニケーション障害支援を包括的に学んだが、これまでに学んだ知識や技能を用いて、学生の主たる対象者に特化した課題を設定し、認知・コミュニケーション障害支援学特論、特論演習で学んだ知識、技能をさらに深く学修しながら、「修士論文」、「課題研究の成果」にまとめる。

(山口)

聴覚障害の症例において、機能評価、症状分析から障害メカニズムを考察し、治療介入による構築・再編成の可能性を模索し、認知・コミュニケーション障害の支援にどのように貢献できるのかを探る。

修士論文：聴覚障害にかかる研究を通じて専門領域を深化させ現場に還元できる研究成果を目指す。研究テーマは、その成果が大学院修了後に現場における生活機能支援に還元できるものとする。また「修士論文」は、学生の職域における学術的特色や独創性、貢献度などを求める。なお、研究指導の過程で、当該学生の修士論文に該当する研究方法論や研究倫理を指導する。

(山口)

課題研究：聴覚障害にかかる臨床・臨地の実践から導き出された対話・言語機能支援に有用な介入や活動あるいは臨床・臨地実践の疑問を解決する方法論を科学的根拠に基づき考察し、「課題研究の成果」にまとめる。「課題研究の成果」は、課題テーマに沿った3症例以上を臨床現場で選択して実践介入し、そこから得られた知見を症例報告としてまとめる。3症例の実践経験から得られた知見を統合し、課題テーマを解決する結論へと導き、「課題研究報告書」にまとめる。「課題研究報告書」は、実際に展開された臨床的推論の明確さ、介入等による変化についての論理的・科学的考察、現場に直結する結論などを求める。なお、課題研究指導の過程で、当該学生の課題研究に該当する研究方法論や研究倫理を指導する。

(山口・井口)

認知機能の回復について、作業療法の実践的理論である人間作業モデルを適用し、高齢者への適用可能性について、介入研究を行いながら実証的に研究する。そこから得られた知見を論文としてまとめ、エビデンスに基づく医療の高度な適用を目指す。課題研究の場合は、認知症に関する事例検討を中心に、作業療法の介入効果についてケーススタディを行う。(山口・井口)

■ 到達目標

修士論文

- ・専門領域の研究テーマについて文献の適切な収集、必要な実験・調査の的確な方法論構築ができる。
- ・研究結果について、論理的思考ができ、その思考を論文にまとめることができる。
- ・研究成果についての的確にプレゼンテーションできる。
- ・研究成果を社会に還元する術を説明できる。

課題研究

- ・専門領域の課題テーマについて文献の適切な収集、科学的根拠に基づいた介入実践ができる。
- ・介入実践の経過や結果を論理的に考察でき、その思考を報告書にまとめることができる。
- ・課題研究の成果についての的確にプレゼンテーションできる。
- ・課題研究の成果を社会に還元する術を説明できる。

■ 授業計画

修士論文

第1回～第15回

研究遂行に必要な研究方法論と研究倫理を指導する

研究テーマの関連文献収集と整理および取り扱う分野における最新情報把握

関連文献や先行知見をもとに研究デザインを考え、研究計画書原案を作成する

第16回～第30回

ディスカッションを繰り返し、研究計画書を作成する

先行研究に基づき研究計画の妥当性を検討し、研究計画書を完成させる

完成させた研究計画書を研究科委員会および研究倫理委員会へ提出、発表する

第31回～第45回

研究計画書に基づき実験、調査または臨床試験を実施してデータを収集する

収集したデータを解析して論理的な解釈を行う

第46回～第60回

中間発表を行って複数の教員や研究者から意見を聞き、軌道修正する

軌道修正を行いながら、実験、調査、臨床試験を実施してデータ収集を継続する

収集したデータを解析して論理的な解釈を行い、論文を執筆する

第61回～第75回

論文執筆とともに、追加実験、再分析、文献再収集等、必要な対策を実施する

論文を完成させて提出し、審査による最終評価を受ける

課題研究

第1回～第15回

課題研究遂行に必要な研究方法論と研究倫理を指導する

課題テーマの関連文献収集と整理および取り扱う分野における最新情報把握

関連文献や先行知見をもとに臨床・臨地活動の方法も含めて課題研究計画書原案を作成する

第16回～第30回

ディスカッションを繰り返し、課題研究計画書を作成する

課題研究計画の臨床・臨地活動との整合性を検討、課題研究計画書を完成させる

完成させた課題研究計画書を研究科委員会および研究倫理委員会へ提出、発表する

第31回～第45回

臨床・臨地現場における実践を積極的に実施し、課題テーマの考察を深める

臨床・臨地活動の成果として課題研究の基盤となる3例以上の症例報告をまとめる

第46回～第60回

中間発表を行って複数の教員や研究者から意見を聞き、軌道修正する

軌道修正を行いながら、臨床・臨地活動を実施して課題テーマの考察を継続する

3例以上の症例報告をもとに考察した課題テーマを整理し、論理的な解釈を行い、報告書を執筆する

第61回～第75回

必要に応じ臨床・臨地活動を継続して、現場に還元する知識・技能を整理、報告書を完成させて提出し、審査による最終評価を受ける

■ 評価方法

修士論文：研究過程と修士論文の内容を総合的に勘案して評価する。

課題研究：3例以上の症例報告書および課題研究報告書の内容によって評価する。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

予習には先行研究の理解・論文執筆などにより、週20時間程度を要する。

復習は、技術の習得度合いにもよるが、週10時間程度を要する。

■ 教科書

書名：授業中に指定する

■ 参考図書

書名：授業中に指定する

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって